

第121号

酪農とちぎ



10月31日「第1回乳牛展示販売」ふれあい牧場 より

- 1 ページ 表紙
- 2～4 ページ 令和4年度上半期事業実績（各部門）
- 5 ページ 東西南北（各支所）
- 6 ページ 部課だより（業務部）
- 7 ページ // （生乳受託課）
- 8 ページ インボイス制度の対応説明会開催
- 9 ページ 理事会だより、令和4年度下期支所事業、市場成績
- 10 ページ 労働力・人材確保支援事業のご案内



コロナ対策笑味ちゃん

令和4年度上半期事業実績

上半期の各部門を合わせた事業総利益は8290万円(計画比24.8%)となり、事業利益においては計画差▲2億4212万円、経常利益においても計画差▲2億3664万円の実績になりました。

飼料高騰による収益低下の対策として5月にkg当り10円の乳価安定特別対策をしたことにより上半期事業利益はマイナスとなっております。最終的に乳価安定特別積立金を取崩し損失金の補填に充てる予定になっています。今後とも組合運営について組合員の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます、以下に各部門の上半期実績について概況を報告いたします。

一、生乳受託事業

生産状況等について

生乳生産量は第1四半期において計画比101.1%と計画を上回る順調な生産となりました。6月下旬から7月はじめにかけての記録的な猛暑とその後の気温低下の影響で、生産は乱高下しました。その後も観測史上最多の猛暑日を更新するなど、厳しい暑さの影響が心配されましたが、大幅な生産の減少は見られず、上半期の生産量は13万1088t(前年比103.3%、計画比102.1%)と計画数量を上回

る生産となりました。

また、コロナ禍の休校等による学乳減少と、飲用・はっ酵乳等向けの不振から加工向けが前年比121.2%と増加しましたが、受託乳量が計画比102.1%と計画を上回った事により、上半期の生乳販売高は150億3042万円(前年比102.3%、計画比102.0%)の実績となりました。尚、自主申告による上半期の生乳委託予定数量は12万8483t(344戸)であり、出荷実績との対比は102.0%となりました。

乳質について

乳脂肪率は昨年と同様な結果となり、猛暑の影響による受送乳業務に支障を来す路線が散見される事が心配されましたが、集乳路線の組み替えによる対応を進め最小限に留める事が出来ました。無脂乳固形分率は、6月までは前年並みで推移しましたが、7・9月は猛暑の影響もあり前年を下回りました。体細胞数は昨年の8月以降ずっと前年を下回る好成绩でしたが、8・9月は乳質が悪化し上昇傾向となりました。また定期検査について、不合格件数は細菌数のみ上回ってしまいました。乳脂肪・無脂固形・体細胞数の件数は減少し、上半期の

不合格件数の合計は前年を58件下回る324件となりました。

生乳生産管理チェックシートの完全定着化については、重点項目の未記帳者が0件であり、目標を継続することができました。

なお、不良乳の発生は3件(抗生物質1件、細菌数1件、異物混入1件)となり、前年の7件から4件下回りました。

奨励金について

需要期出荷奨励金は1億4087万円(前年比103.1%、計画比102.4%)で、需要期優良生乳出荷奨励金は該当率42.4%、7192万円(前年比120.8%、計画比108.4%)となり、合計2億1280万円の実績でした。

また、飼料高騰等により収益低下が見込まれる中、酪農経営の安定を図るため、理事会決議に基づき4・5月の出荷乳量に対し1.4円/kgの酪農経営安定対策助成金6437万円を支出いたしました。

さらに、臨時理事会決議に基づき、追加対策として5月の出荷乳量に対して10円/kgの乳価安定特別対策金2億3280万円を支出いたしました。

二、購買事業

上半期の飼料供給量は、濃厚飼料において、配合飼料やTMRで酪農中止の影響や他飼料へのメニュー変更による供給量減があり3万8044t(計画比97.6%)と計画を下回りました。粗飼料に

において、デントコーンの供給量増があり1万4766t(計画比100.8%)と計画を上回りました。そのような状況下で、供給量別利用奨励金を配合飼料1億1114万円、粗飼料1336万円、TMR等960万円、その他計画外で配合飼料等特別緊急対策金7072万円、総額2億482万円、計画比148.6%を支払う事が出来ました。

収支実績においては、計画外での配当金、特別奨励金があったことにより、事業総利益1億418万円(計画比118.2%)となりました。

三、酪農指導及び流通事業

酪農指導事業においては酪農経営の安定を図るため、巡回指導を通し飼養管理改善を行ったほか、各種補助事業を推進すると共に、組合・制度資金借入等の相談や組織活動支援に努めました。

経営及び飼養管理改善の指導支援については、酪農経営安定に向けて、飼養管理改善や飼料給与相談を332件行いました。検定成績を活用すると共に、急激なコスト上昇に対応するため、現場で牛の状態や乳成分結果を踏まえた飼料給与や環境改善策の提案を行いました。

乳質向上に向けては、146件の指導や相談を行いました。その中で、搾乳立会を適宜行い、バルク乳スクリーニング検査の結果と搾乳手順の確認や搾乳衛生に関す



るアドバイス等を通して、乳質の向上を図りました。

生産性向上に向けて、哺育育成プロジェクトにおいて、暑熱期の子牛の管理等について啓発文書を2回発信しました。

急激な経営環境の悪化に対応するため、組合・制度資金借入相談や経営改善計画作成の支援や、金融機関との協議を行いました。

補助事業については、個々の経営安定向上を目的として各種事業に取組みました。クラスター事業を初め、県、国の飼料高騰に対する支援事業の情報収集、実施に向けた準備を行いました。

良質自給飼料生産の安定と拡大に向けた取り組みについては、酪農とちぎアグリサポートにおいて、各支所と連携し、効率的な作業が行われるように対応いたしました。

県北を中心に放射性物質の影響による牧草の給与前検査が必要なことから、サンプル採取の巡回等を通し、安全で安心な生乳生産に努めました。

飼米サイレージの製造は、高根沢町と下野市の2拠点において、42名の稲作農家から約161ヘクタールの飼米を買受けし、飼米サイレージの製造へ向け準備を行いました。また、県内4ヶ所の製造者を集め、品質向上のための検討会を実施しました。

担い手の確保については、後継者向けの経営能力向上のため、関係機関と連携し、栃木県酪農経営セミナーを開催しました。

酪農ヘルパー事業について、ヘルパーの稼働実績は、傷病利用の増により計画を上回りました。人材確保に向けて学生インターンシップ募集を行い6名の受け入れを計画し、上期において2名の学生を受け入れました。

生乳生産現場の環境整備と美化の推進について、牛舎環境調査を実施し、生産現場の環境整備を推進しました。全体の97.6%の組合員の方が80点以上の点数を獲得されました。様々な伝染病のリスクが高まる中、消毒槽の設置等、防疫措置に関し今後も引き続き啓

蒙してまいります。

各組織の充実については、各組織が展開する事業運営について、新型コロナウイルス感染拡大防止を図りつつ自主的な組織活動の充実に向け活動協力を努めました。

乳牛導入事業は、組合員間の販売が多くあり、計画を上回りました。(108頭 計画比166.2%)
肉用化事業は、大口利用により、計画を上回りました。(326頭 計画比122.1%)

預託事業は、県外、県内預託ともに、計画を下回りました。(6448頭 計画比91.2%)

令和4年上半期 予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)	
生乳販売	収益	16,411,596	16,739,174	327,578	102.0%
	費用	16,210,115	16,809,146	599,031	103.7%
	利益	201,481	▲ 69,971	▲ 271,452	-
購買	収益	4,499,790	4,899,218	399,428	108.9%
	費用	4,411,677	4,795,041	383,364	108.7%
	利益	88,112	104,176	16,064	118.2%
酪農指導	収益	132,456	138,451	5,995	104.5%
	費用	126,575	125,087	▲ 1,488	98.8%
	利益	5,881	13,363	7,482	227.2%
流通	収益	238,335	243,426	5,091	102.1%
	費用	237,741	242,777	5,036	102.1%
	利益	594	649	55	109.3%
改良	収益	214,739	257,407	42,668	119.9%
	費用	201,156	240,813	39,657	119.7%
	利益	13,583	16,594	3,011	122.2%
診療	収益	17,935	19,282	1,347	107.5%
	費用	8,465	8,830	365	104.3%
	利益	9,470	10,451	981	110.4%
牧場	収益	110,638	109,494	▲ 1,143	99.0%
	費用	94,785	101,848	7,063	107.5%
	利益	15,853	7,646	▲ 8,206	48.2%
事業総収益	21,625,489	22,406,455	780,966	103.6%	
事業総費用	21,290,514	22,323,545	1,033,031	104.9%	
事業総利益	334,974	82,909	▲ 252,064	24.8%	
事業管理費	338,502	328,565	▲ 9,936	97.1%	
事業利益	▲ 3,527	▲ 245,656	▲ 242,128	-	
事業外収入	11,192	12,323	1,131	110.1%	
事業外費用	9,610	5,257	▲ 4,352	54.7%	
経常利益	▲ 1,945	▲ 238,589	▲ 236,644	-	

同 (株)酪農とちぎアグリサポート予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)
収益	58,500	62,277	3,777	106.5%
費用	63,455	62,051	▲ 1,403	97.8%
利益	▲ 4,955	225	5,180	-

四、改良事業

凍結精液については、乳用牛は、畜産・酪農生産力強化対策事業(クラスター)及び後継牛安定確保対策事業を活用し性別別精液の利用を促進しました。販売実績は、暑熱及び授精適期のズレによる供給減により計画を下回りました。

肉用牛は、AI事業体の協力を得て人気種雄牛精液の確保に努め、精液情報及び価格の変更等情報提供に努めました。販売実績は、一部の人気精液で入荷制限がありました。乳用牛 実績



6800本 計画比77・7%
(肉用牛 実績1万1310本
計画比115・4%)

受精卵は、和牛遺伝資源流失防止対策緊急支援事業を活用した和牛受精卵の供給、リピートブリーディング対策のF1受精卵の供給推進等を行いました。(受精卵 実績2843個 計画比149・2%)
和牛遺伝資源流失防止対策緊急支援事業については、大口利用者からの和牛受精卵の需要が多く、販売本数は計画を上回りました。通常販売受精卵については、授精適期牛の減少等から計画を下回りましたが、受精卵全体では計画を上回りました。

登録業務について、血統登録証明書は事故の解消等に努めながら自動登録を推進しました。また、前期牛群審査の実施やゲノミック評価利活用について推進しました。実績件数については、分娩牛が少なかったことによる血統登録申請件数の減、牛群審査頭数の減、ゲノミック検査の申請時期のズレにより計画を下回りました。

牛群検定事業や後代検定事業の普及支援に努めました。各検定組合の組合長と事務局を対象に会議を開催し、情報共有及び事業推進を図りました。
ゲノミック評価利活用について、昨年に引き続き検査費用の補助を設定し、ゲノミック検査の推進を行いました。18戸255頭が検査を行いました。また、勉強会を3回開催し、農場ごとの検査結

果をもとに牛群の傾向を踏まえ、交配計画の策定を行いました。

五. 診療事業

繁殖検診事業について、直腸検査は、離農による検診戸数の減はありましたが、ふれあい牧場の頭数増により計画を上回りました。(6915頭 計画比102・4%)

血液検査は、計画外の給与試験の採血依頼があり、計画を上回りました。(85頭 計画比212・5%)

乳房炎防除事業について、バルク乳検査は、離農等による実施戸数減により計画を下回りました。(305件 計画比98・4%)

個体乳検査は、バルク乳検査後の依頼が少なく計画を下回りました。(21頭 計画比7・8%)

受精卵移植事業について、採卵は、ホルスタインが計画を下回りましたが、和牛の依頼があり計画通りでした。(5頭 計画比100%)

移植は、IVF卵やふれあい牧場での依頼が多く計画を上回りました。(133頭 計画比141・5%)

診療・その他について、人工授精は、検診時に同期化授精を積極的に実施したため、計画を上回りました。(391頭 計画比105・7%)

診療等は、計画外の共進会ワクチン接種等により計画を上回りました。(82件 計画比

182・2%)

証明書発行は、補助事業の移植証明書や授精証明書の発行が多く計画を上回りました。(129件 151・8%)

放牧場関係は、県外預託は計画を下回りましたが、ふれあい牧場の預託頭数増に伴い、ワクチン接種も増えたため計画を上回りました。(481件 106・9%)

六. 牧場事業

牧場の飼養、圃場管理全般の作業等を(株)酪農とちぎアグリサポートに委託し、効率的な事業運営を図りました。

ふれあい牧場の預託頭数確保については、預託需要が増えていく状況の中、計画預託頭数の確保が出来ました。(預託延べ頭数12万4120頭 計画比109・1%)

飼養管理、衛生管理を徹底し、発育向上に努め、また月2回の定期検診等を行い、平均分娩月齢は24・6ヶ月となりました。

飼料価格が高騰している状況の中、自給飼料及び国産飼料の有効利用を図りました。生産物は、作業の遅れにより計画を下回りました。(生産物1267・5t 計画比92・9%)

ふれあい牧場と各放牧場の一体管理による効率的な事業運営について、小林放牧場と土上平放牧場を利用し、効率的な運営を行いました。(小林放牧場60頭 土上平129頭)

七. 経営管理

事業管理費は、職員数減等により人件費減、又新型コロナウイルスに伴うWeb会議増により旅費交通費減により、実績3億2856万円(97・1%)と計画を下回りました。

(株)酪農とちぎアグリサポート

牧場の運営支援と組合員の自給飼料生産支援又は、労力の軽減支援を図ることを事業方針とし、事業を実施して参りました。特に人的支援については、要望が多く計画を上回る実績となりました。

収支実績については、農機具費及び資材費用増ではあったが、受託農家の収穫物が多かったため計画を上回る実績となりました。

飼養管理について、飼養管理、衛生管理を徹底し、発育・繁殖向上に努めました。平均分娩月齢は24・6ヶ月齢となりました。

圃場管理について、良質自給飼料生産に努め収穫作業を実施しました。収穫量は作業の遅れにより計画を下回りました。(実績1267・5t 計画比92・9%)
受託事業について、デントコーン等収穫受託作業の要望が増え、計画を上回りました。(実績353・5ha 計画比112・9%)

人的支援について、堆肥散布、デントコーン収穫作業等のオペレーター作業が増え、計画を上回りました。(実績1464時間 計画比128・4%)

東西南北

那須高原支所

牧場満喫！小学生が搾乳体験

11月21日、那須塩原市青木の小針勤牧場（青年部黒磯支部員宅）で、地元の青木小学校3年生を牧場に招待して搾乳体験を実施しました。この行事は、青年部黒磯支部青木地区と青木小学校が連携し、市の基幹産業である酪農について、子供たちの理解を深める学びの場として毎年行われています。今年も11名の児童が、感染症対策を講じた中、来場してくれました。最初に、子牛の搾乳体験を行いました。一人一つ搾乳瓶を持って搾乳のお手伝いをしました。最初



青木小学校3年生による搾乳体験

は、子牛の力強さに驚き、困惑した子もいましたが、青年部員の丁寧なアドバイスを聞いて、途中から上手に搾乳をしていました。

その後、牧場の見学を行い、小針勤さんの分かりやすい説明に子供たちは興味津々で、様々な質問をしていました。

続いて、メインイベントの搾乳体験を行い、搾乳体験車（わくわくミルキングカー）で一人一人順番に搾って頂き、青年部員が搾乳のお手伝いをしました。始めは上手く搾れない子も、プロのアドバイスをよく聞いて上手に搾れるようになった。みんな笑顔で終わる事ができました。体験後に、牛乳を飲んでもらい、「牧場の味」を満喫して頂き、とても喜ばれました。最後に、児童の皆さんには記念のお土産をお渡しして、元氣いっぱいのお礼の挨拶を頂き無事終了しました。

今年も子供たちには楽しい秋の思い出を作ってもらう事が出来たと思います。また、今回の体験をきっかけに、酪農について理解を深め、国産牛乳・乳製品の消費拡大の一助になったことと思います。小学校の先生方、青年部員の皆様、ご協力にありがとうございます。

宇都宮支所

青年部で搾乳体験を開催

11月17日、矢板市の「こどもの森こころ保育園」において、青年部



「こどもの森こころ保育園」の園児達

塩谷支部（羽田光論支部長）が毎年恒例の搾乳体験を開催しました。

昨年引き続き、コロナ禍がまだまだ治まらない県内情勢ではありますが、保育園からの熱い要請もあり、実施することとなりました。当日は年長さん22名が体験されました。昨年までは、毎年11月に搾乳体験をしている年長さんを眺めるだけだった今年の参加園児たち。搾乳体験が始まる前から大興奮！牛を見て、触って、乳を搾ってなかなか出来ない体験を通じて、乳搾りを楽しんでいました。

同保育園での開催は今年で8年を数え、すっかり定着したイベントとなりました。保育園の先生や、保護者の皆様からも、卒園アルバムを飾る良い思い出として親しまれております。

酪農情勢が厳しい中ですが、園児たちの満面の笑みを受け取り、青年

部員各位も一時的安らぎを感じる事が出来ました。今後もこの事業を継続し、酪農理解醸成活動で酪農業界へ貢献して行きたいと思えます。

県南支所

花の苗配布（支所協議会）

11月1日、支所事業における環境美化の一環として、花の苗（パインジー・ピオラ）を配布しました。今年についても青年部員の方々に協力を頂いて、管内組合員へ配布をいたしました。

ここ最近、飼料価格の高騰等明るい話題があまりありませんが、牛舎の周りに花を植えていただいて明るい気持ちで毎日の作業に励んでもらえればと思います。

最後になりますが、配布に協力頂いた青年部役員をはじめ、部員の方々に厚くお礼申し上げます。



県南支所協議会花苗配布



部課だより

業務部

● 乳牛展示販売会開催される

10月31日に、毎年恒例となっております令和4年度第1回目の酪農とちぎ乳牛展示販売会が盛大に開催されました。

当日は快晴の中、本年も組合員の皆様が愛情たつぷりに育てた自慢の初妊牛が、24頭出品され、販売会々場は購買希望者・当日飛び入りの参加者及び出品者で大賑わいとなりました。

臼井組合長の挨拶に続き、購買希望者による出品の確認後、一頭ずつ希望牛の前で挙手をしていただき、希望者が複数の場合はくじ引きによる抽選となり盛り

結果表				
第1回 (10 / 31 開催)		(円・税込)		
出場頭数	成立頭数	最高額	最低額	平均価格
24	24	460,000	340,000	402,500



上がりを見せる場面がありました。その結果、全24頭が完売となりました。

当日の結果は別表のとおりとなります。酪農とちぎでは今後も地域の生産基盤維持に向けた取組の一つとして、乳牛展示販売会を続けていきたいと考えています。

令和4年度第2回目の乳牛展示販売会は、令和5年3月に予定をしています。

しかしながら、生乳需給の動静



を見て開催の可否を決める予定ですので、開催する場合には、是非ご検討いただきますよう、よろしくお願ひします。

● 酪農ヘルパーが取材を受けました!

11月16日、当組合酪農ヘルパー2名が、職業としての酪農ヘルパーを全国の農業高校の生徒向けに紹介するため、インタビューを受けました。当日は、下野市の海老原牧場にて、酪農ヘル



海老原牧場にて、取材を受ける酪農ヘルパー

パーが行う作業の撮影を行い、同時に仕事内容やこの仕事の魅力、抱負など、根掘り葉掘り聞き取りを行いました。

取材内容については、中央畜産会が畜産に関わる仕事をまとめた冊子を作成し、来年3月に全国の農業高校に配布される予定です。

ヘルパー事業が継続発展できるように、取材協力やインターンシップ受入など、ヘルパー自らも地道に活動しております。引き続きヘルパー事業へのご理解ご協力を宜しくお願い致します。

生乳受託課

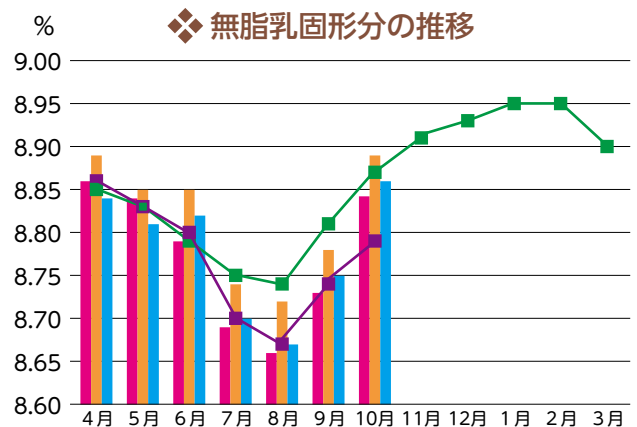
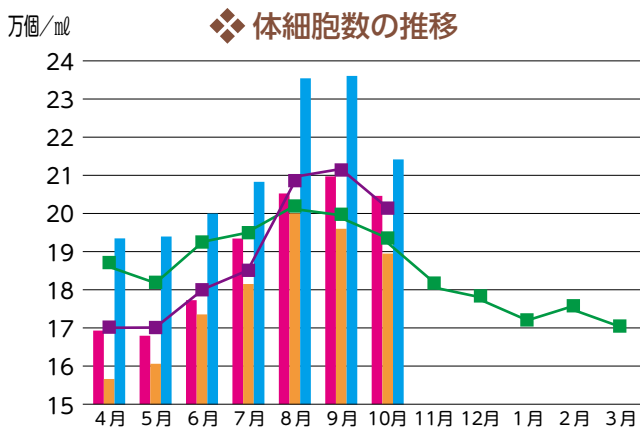
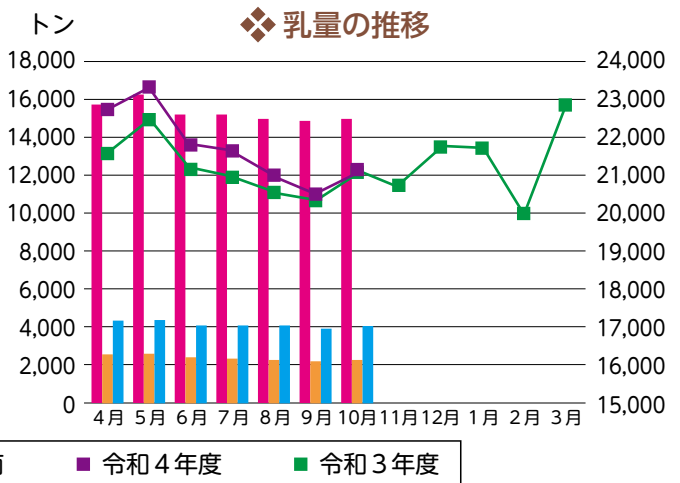
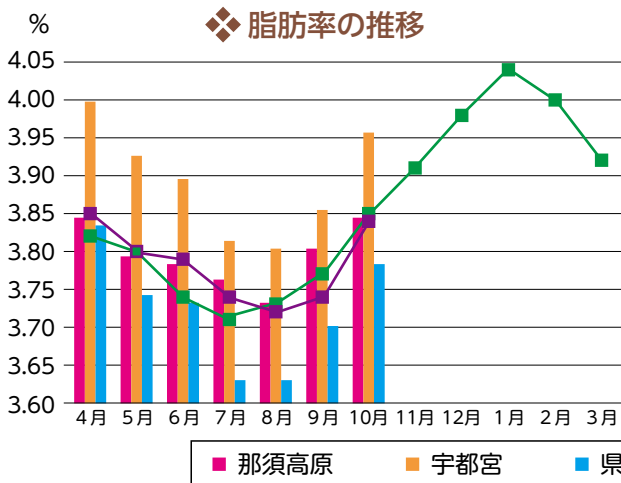
令和4年10月度の組合生乳生産量は、2万1258t（前年比101.0%）となりました。各支所の受入乳量は、那須高原支所1万4985t（前年比103.2%）、宇都宮支所2242t（同94.1%）、県南支所4031t（同97.1%）となり、出荷者数は前年同月より20戸減の334戸（内、学校1）となりました。10月度の組合平均乳質は、脂肪率3.84%（前年差▲0.01%）、無脂固形分率8.84%（同▲0.03%）、体細胞数20.38万（同+1.03万）と各乳質とも前年同月を若干下回る結果となりました。

関東生乳販連の10月の総受託乳量は8万6019t（前年比100.6%）となり、21ヶ月連続で前年を上回る状況です。用途別販売数量を見ると、飲用・はっ酵乳等向けが生乳生産並みに届かず、加工向けは前年より増加しました。ただし加工向けの増加幅はこれまでの平均と比べると小幅に

留まっています。全国の生産量は97.6%と3ヶ月連続で前年を下回りました。内訳は北海道が97.2%、都府県が98.3%の前年比となっています。なお、令和4年10月度の生産量・乳質、及び関東生乳販連の用途別販売数量は別表の通りです。

令和4年度 関東生乳販連用途別販売数量 (単位: kg・%)

用途	10月期実績	前年同期実績	前年比	10月末実績(累計)	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	68,236,270	67,824,975	100.6	464,684,284	468,386,080	99.2
(うち学校を除く飲用)	56,529,157	55,569,471	101.7	399,668,548	403,061,899	99.2
(うち学校向け)	11,707,113	12,255,504	95.5	65,015,736	65,324,181	99.5
はっ酵乳向け	12,082,593	12,196,242	99.1	85,412,761	87,024,932	98.1
脱粉・バター等向け	4,483,889	4,294,202	104.4	59,204,595	49,444,945	119.7
生クリーム等向け	1,082,715	1,081,521	100.1	7,398,935	7,245,593	102.1
チーズ向け	133,970	103,795	129.1	828,688	657,261	126.1
総受託乳量	86,019,437	85,500,735	100.6	617,529,263	612,758,811	100.8
脱粉・バター等向け比率	5.21	5.02	-	9.59	8.07	-



インボイス制度の対応説明会

11月1日に那須高原支所、11月4日にJA栃木教育センターにてインボイス説明会を開催しました。

講師には宇都宮税務署の個人課税第一部門記帳指導推進官の井上義秀氏に依頼し、来年10月から導



那須高原支所会議室

入されるインボイス制度についてご説明頂きました。本説明会に94名のご参加を頂き、60名の方がその場でインボイス発行事業者の登録申請の手続きを行いました。

インボイスは一定の記載事項を満たした請求書等であり、インボ

イスが無いと仕入税額控除が出来ない為、消費税の納付額が増加してしまいます。ポイントとは左記の通りとなります。

○インボイスを発行するには登録申請が必要。

○来年10月に間に合わせるには3月末までに申請をする。

○インボイスを求められたときに発行できないと、仕入税額控除が出来ない為、購入に難色を示される可能性がある。

○インボイスには必要記載事

項があり、早めに準備を推奨。

- ・ 発行者の氏名と登録番号
- ・ 取引年月日
- ・ 取引内容（軽減税率の区分）
- ・ 税率毎の代金合計と適用税率
- ・ 税率毎の消費税額
- ・ 販売先の氏名

○免税事業者が登録申請をすると課税事業者になる。

○令和5年10月～令和8年9月までは80%、令和8年10月～令和11年9月までは50%の仕入税額控除ができる経過措置がある。

説明会には多くのご参加があり、活発なご意見、ご質問を頂きました。参加された皆様には井上氏のご指導のもと、インボイス制度・消費税にご理解を深めて頂けたと



JA 栃木教育センター（宇都宮・県南）

思います。酪農とちぎ農業協同組合、株式会社酪農とちぎアグリサポートにおいても登録申請を済ませました。皆様におかれましてもご準備の程よろしく申し上げます。尚、来年1月までにインボイス発行事業者登録の可否について組合員の皆様に照会をしますのでご協力をお願いいたします。その際に登録番号等が記載された税務署からの通知書を確認することになりますので、大切に保管しておいてください。

理事会だより

7月度理事会（7月29日）

- (一) 報告事項
 - ① 組合員の加入について
 - ② 業務経過報告について
 - ③ 組合資金貸付について
 - ④ 質上げ及び夏季手当の支給について
 - ⑤ 特別管理未収金の報告について
 - ⑥ 乳牛飼養動態調査結果について
 - ⑦ 子会社の第1四半期事業実績について
 - ⑧ 関東生乳販連情報について
- (二) 協議事項
 - ① 6月度及び第1四半期事業実績について
 - ② 令和4年度配合日飼料等特別緊急対策金追加措置(案)について
 - ③ 那須高原クーラーシステムについて
 - ④ アンアイスピルター(冷凍機)更新延期について
 - ⑤ ふれあい牧場キュービクル高圧ケーブル及び配電盤改修工事に係る設計管理者の選定について
 - ⑥ 固定資産の取得について

- (三) 組合と理事との契約について
- (四) 固定資産の取得について

9月度理事会（9月30日）

- (一) 報告事項
 - ① 業務経過報告について
 - ② 組合資金貸付について
 - ③ 組合プール乳価について
 - ④ 関東生乳販連情報について
- (二) 協議事項
 - ① 8月度事業実績について
 - ② 育児・介護休業等に関する規程の一部改正について
 - ③ 組合と理事との契約について
 - ④ 固定資産の取得について

10月度理事会（10月31日）

- (一) 報告事項
 - ① 組合員の加入・脱退について
 - ② 業務経過報告について
 - ③ 組合資金貸付について
 - ④ 組合プール乳価について
 - ⑤ 特別管理未収金の報告について
 - ⑥ 子会社の上半期事業実績について
 - ⑦ 関東生乳販連情報について
- (二) 協議事項
 - ① 9月度及び上半期事業実績について
 - ② 外部団体等の役員推薦について(追認)
 - ③ 固定資産の取得について

令和4年度下期支所事業

那須高原支所

11月1日に支所活動推進協議会(斎藤章会長)に係る4地域酪農組合長会議を開催し、下期事業について協議しました。

【実施事業】
○11月24～12月2日(7日間)

- 第2回牛舎環境調査
- 12月20日(予定)
- 支所全体研修会(講演会)
- 「飼料高騰下の酪農経営について」

1月に最終判断予定事業

○ ボウリング大会(2月実施予定)

宇都宮支所

11月17日に支所活動推進協議会役員会(木村康彦会長)を開催し、下期活動推進についての検討を行いました。

【実施事業】

- 10月27日 花苗の配布(報告)
- 苗・ピオラ、球根・チューリップ・ガーデンヒヤシンス等 全戸配布しました。
- 11月29日 12月1日 牛舎環境調査巡回
- 2月(予定)
- 支所協議会新春懇談会
- 『今後の生乳需給状況について(仮)』
- また、例年開催しております全体研修会(年内開催)につきましては、コロナ禍により中止となりました。

県南支所

10月13日、支所活動推進協議会役員会(羽石智昭会長)を開催し、今年度下期事業について協議しました。

【実施事業】

- 11月7日 花の苗配布(報告)
- 2月(予定) 支所全体研修会
- 3月上旬 確定申告相談会
- 3月上旬 組合顧問弁護士・齋藤 譲一氏
- 3月下旬(予定) 支所全体交流会
- (バーベキュー)
- 年内随時 青色申告学習会
- 指導 根本 壽一氏
- 指導 大阿久善之氏

以上、各組織により事業運営して参りますので、今後ともご協力の程、宜しくお願ひ致します。

10月度 ホクレン初妊牛市場成績 [単位：千円(税込)]

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
根室	10月4日	420	335	79.8%	456	49	40	655
釧路	10月4日	254	221	87.0%	429	24	20	566
十勝	10月5日	590	493	83.6%	489	84	75	765
北見	10月19日	381	329	86.4%	427	33	31	622
十勝	10月20日	588	510	86.7%	500	116	101	736
豊富	10月21日	380	291	76.6%	407	10	9	608
根室	10月27日	470	422	89.8%	436	66	60	649
合計		3,083	2,601	84.4%	449	382	336	657
前月		2,793	2,288	81.9%	466	347	290	620
前年同月		3,158	2,600	82.3%	596	277	231	758

初妊牛の今後の動向は1月下旬腹以降の分娩が中心となります。導入シーズンを迎え、都府県より注文が入る時期になりますが、酪農情勢や資源が豊富な事などから、先月に引き続き軟調傾向は変わらず、相場は横這いとなる見込みです。また、腹別問わず資源確保は十分できる状況です。導入を希望される方は腹条件、分娩月をご検討の上でのお申し込みをよろしくお願い申し上げます。

10月度 県内家畜市場成績 [単位：円(税込)]

市場名	種別	出場頭数	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
那須(10/30)	F1雄	172	162	68	205,700	110	107,283	7,427
	F1雌	149	133	64	190,300	110	68,459	▲2,169
	ホルズ雄	87	81	68	61,600	110	28,853	1,834

今回の初生牛相場は前号に報告した6月の平均価格と比較しますと、全ての種において弱含みで推移しています。また、全ての種において価格がおよそ100千円のマイナスとなりました。例年冬から春先にかけて価格は下降傾向を取ることが多いですが、今後相場は横這いに推移すると見込めます。



酪農とちぎ **労働力・人材確保支援事業** のご案内

組合の新たな取り組みとして、国内有数の農業専門求人サイトの「農業ジョブ」と提携し、組合員の労働力確保対策として求人広告サービスを組合員を対象に提供いたします。

このサービスを活用し、組合員の皆様がより一層、農業生産を充実させ、酪農経営が発展していくことを目指しています。

ご利用費用


30,000円

利用期間
2023/11/30まで
12月更新

▼ご利用例

- アルバイト・パート募集
- 正社員の募集
- 研修生、インターン生の募集
- 後継者の募集

農業ジョブ 求人に応募



お申込み頂いた組合員の求人が「農業ジョブ」という農林水産業専門求人サイトに掲載されます。その後、組合員の牧場等で働きたいという方から応募がありますので面接の上、採用することができます。

★活用方法は支所担当者へご相談ください

【ご用意いただくもの】

- ① 求人票（フォーマット記入）
- ② 写真（デジタルカメラ・スマートフォンなどのデータ。ネガ不可）

※本サービスは組合員のみへの提供となっております。
求人広告サービスのため、必ず人材を採用できることを保証するものではありません。

（問い合わせ先）業務部指導企画課 TEL:028-660-2213 MAIL:shidou@rakunoutochigi.com

農業求人情報サイト **農業ジョブ** とは？
agrijob.jp

農業ジョブは、農業、林業、漁業に特化した専門の就職支援情報サイトで、求人情報をはじめ、各業種ごとの仕事解説など、第一次産業分野での仕事を希望している方々へ向けての総合的な就職支援サービスを展開しています。

2006年のオープン以来この業界のマーケットをいち早く開拓しており、利用者は年々増加。現在は登録者数11万人を誇る業界最大のサイトとなりました。



◆利用者の方へ

本サービスは、酪農とちぎが国内有数の農業専門求人サイトの「農業ジョブ」の運営会社（株式会社 Life Lab）と提携し、一括で求人掲載契約を行うことで、費用を低く抑えています。利用を希望される組合員の方には、利用負担金として、3万円/年をご負担いただきます。また今後、利用者が増えれば、1利用者あたりの単価も下がります。

なお、求人広告掲載後の応募対応、採用面接、採用後の労務管理等は、すべて利用者自ら行っていただきます。